

セクレタリーバード

ペアで獲物を探して歩き回る。ハイブーツを履いた貴婦人のような



セクレタリーバード(ペリワシ)は、タカ目ペリワシ科で、タカの仲間だ。英名は「黒い飾り羽を持つ頭部が、髪の毛に何本もの羽根ベンを挿していた昔の女性秘書セクレタリー」の姿によく似ていることから名付けられたようだ。

首と脚が長く、見た目はツルの仲間のように見える。図鑑によつては、識別のためにツル類と同じページに掲載しているものもあるくらいだ。鉤形に曲がった嘴を見るタカの仲間であることが頗る。ツルのように長い脚を持つタカの仲間は、他にはない。セクレタリーは、一風変わったタカの仲間なのだ。

昆虫類や爬虫類、ネズミのような小型哺乳類などを捕つて食べる。その捕獲の仕方が独特だ。タカの仲間は木や岩に止まって獲物が現れるのを待つ

て、見つけた獲物を探して飛び回つたり、歩き回つて獲物を探す。姿勢良く背筋を伸ばして、長い脚で

立ち伏せたり、獲物を探して飛び回つたりと、常に脚を伸ばして飛ぶ姿は、やはりツルやコウノトリにそっくりだ。しかし、時折見せる急降下と急上昇を繰り返すダイナミックな「波状飛行」は、タカ類特有の縄張りを誇示するためのディスプレイ飛行だ。長い首や脚が邪魔をして、こんなスピード感のある飛行をするとは想像しないなかつたのだが、大空を繰り広げられるセクレタリーの「波状飛行」は壯觀だ。

国際自然保護連合(IUCN)によつて絶滅危惧種に分類されている。個体数は減少しているが、行動範囲が広く飛翔力もあるので、思わぬところでの鳥に出会うことがある。ジンバブエの空港に着陸した直後、飛行機の窓の外に見える荒野を、アゲハ蝶と一緒に姿を見つけたのもあつた。

タカとは思えぬ風変わりなセクレタリーは、魅力たっぷりの猛禽だ。

上昇気流を捉えて飛翔する。灰白色と黒のコントラストが青空をバックに映える



動物写真家 須藤一成

乾季の終わりの10月、繁殖活動が始まった。木のてっぺんに造られた巣は、遠くまで見通せて気持ちが良さそうだ

キックで捕獲 風変わりな猛禽類



姿はツルやコウノトリにそっくりだ。頭部の黒い飾り羽は、昔の秘書(セクレタリー)が髪の毛に羽根ベンを挿していた姿を連想させる

すどう・かずなり
1961年、京都府夜久野町(現福知山市)生まれ。イヌワシに魅せられ、滋賀を拠点に日本やアフリカで野生動物の撮影に取り組む。米原市在住。写真集「Golden Eagle イヌワシ」(平凡社)、DVD「ブルックイーグル」「ツキノワグマ」など。

